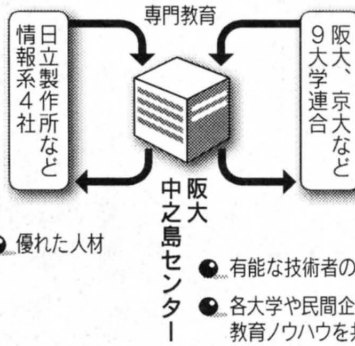


ソフト開発リーダー養成

関西が強みとする家電のプログラムや金融システムなど大規模ソフトの開発を率いることができる第一線の技術者を大学で養成する事業が四月から始まる。大阪大学や京都大学、立命館大学など九大学が連携し、日立製作所など情報系四社と組んで阪大に専門教育コースを開く。製品サイクルの短期化や高度化でソフトの開発需要は高まるばかり。計画全体を見据え開発を主導するリーダーが不足しているのに対応、産学が大同団結して育成を目指す。

産学連携による技術者養成

- 開発現場のノウハウ指南
- 情報系大学院の教員
- 社員を講師に派遣
- 35人程度の大学院生



- 優れた人材
- 有能な技術者の卵
- 各大学や民間企業の教育ノウハウを共有

日立など4社と組み 管理術まで伝授

国公立の垣根や地域を越えて連携する主な大学の事例

【大学】	【連携の内容】
京都大、早稲田大	研究や教育、産学連携で包括協力。共通プラットフォームのビル開発
大阪府立大、東北大	大阪府立大学のキャンパスに東北大学が研究施設を開設。超微細加工技術や金属研究
立命館大、関西医科大	医学と工学を組み合わせた共同研究
京都産業大、京都府立医科大	医学関連分野の教育や研究
大阪大学、京都大学、立命館大、奈良先端科学技術大学院大、神戸大、和歌山大、兵庫県立大、大阪工業大、高知工科大	ソフトウェアの設計者やシステムエンジニアなどの育成

阪大や京大のほか、奈良先端科学技術大学院大、神戸大、和歌山大、兵庫県立大、大阪工業大、高知工科大の情報系大学院が参加する。国公立の枠を超えて、しかも離れた地域の大学がこれだけの規模で連携するのは

珍しい。中之島の阪大で四月下旬にも各大学が二十一人程度の大学院生を選抜し、三十五人程度が阪大中之島センターで毎月一〜三回の英才教育に取り組み。文部科学省が「先導的ITスペシャリスト育成推進プログラム事業」として資金面などを支援する。九大学は単位を相互に認める協定を結び、専門

教育コースの履修をそれぞれの大学の単位に認定できるようにした。通常の授業とは別に受講させたり、従来の授業に替えて専門教育に専念させた

り、対応は各大学に任せ

さらに各大学はそれぞれの大学が日ごろ実施している授業をビデオ教材にまとめ、大学同士での交換も始める。優れた授業を九大学で共有し、教育水準を底上げする。

人材囲い込み

専門コースは学生にコンピュータを貸し出し、図書館の蔵書検索システムやネットワークシステムなどを実際に作成してもらおう。作成後は出荷前の品質検査を見立てた業務も体験学習。企業のソフト開発の現場の全体像を学ぶ。

大学連合は日立製作所、NTTデータ、日立システム子会社の日立システムアンドサービス、大阪ガス子会社のオージャス総研(大阪市)との間で、合計十人の社員を講師に迎え入れることでも合意した。

大学側が経費や設備を負担する一方、企業側は単なるソフトの開発技術だけでなく、システム開発の現場を知る社員が開発プロジェクトの管理ノウハウまで指南する。専門性が高いようにみえる情報系大学院生でも、大学での授業は座学や基礎学問に偏りがち。このため高度なソフトウェア開発を手掛ける人材は企業が育てているといわれていた。新事業は大学の授業で不足しがちな即戦力として役立つ技術を身に付けてもらうのが狙いだ。

大学連合では「IT企業へ入ってから五〜十年以上は第一線で活躍できる人材を毎年輩出する」ことを目標にしている。商品の開発競争が過熱する中、企業側も不足がちなソフト開発の人材を囲い込みたい狙いがある。